論文種別　（原著、総説、短著、症例報告、その他)

和文タイトル

英文タイトル

著者名１(1、著者名２(2、著者名３(1,2、責任著者名(1,3

1)　所属先１

２） 所属先２

３） 所属先３

キーワード：

英文キーワード：

概要：　(概要は和文、英文の何れかが必須です。両方を記載していただいても構いません。)

邦文500字以内

英文概要：

英文400word以内

執筆に際しては、論文執筆要綱等を参考にし、下記のテンプレートを利用して記載してください。

序文

序文では、その研究を幅広い文脈の中で簡潔に位置づけ、なぜそれが重要なのかを強調する必要があります。また、研究の目的とその意義を明確にします。研究分野の現状を注意深くレビューし、主要な論文を引用する必要があります。必要に応じて、論争中の仮説や分岐点となる仮説を強調してください。

最後に、この研究の主な目的を簡潔に述べ、主要な結論を強調します。可能な限り、自分の研究分野以外の科学者にも理解できるような紹介文にしてください。参考文献には、登場順に番号を付け、示してください。参考文献の詳細については、巻末をご参照ください。

方法

方法は、他の人が発表された結果を再現したり、それを基に構築したりできるよう、十分に詳細に記述する必要があります。一般に公開されているデータベースに登録されている大規模なデータセットを報告する研究原稿では、データがどこに登録されているかを明記し、関連するアクセッション番号を記載する必要があります。

動物またはヒトを対象とした介入研究、および倫理的承認を必要とするその他の研究については、承認を行った機関および対応する承認番号を記載することが望ましいですが、院内審議等を経て、対象者からのインフォームドコンセントを得ているような場合であれば投稿は差し支えありません。

結果

　このセクションでは、実験結果とその解釈、および導き出される実験的結論を、簡潔かつ正確に記述する必要があります。必要に応じて、図表を使用してください。各図表は、下に示すテンプレートのように挿入し、図表ごとに簡潔に、その図表が何を指すのかを記載して下さい。

**Table１.** 表のタイトル

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **Title 1** | **Title 2** | **Title 3** | **Title 4** |
| entry 1 | data | data | data |
| data | data | data |
| data | data | data |
| entry 2 | data | data | data |
| data | data | data |
| entry 3 | data | data | data |
| data | data | data |
| data | data | data |
| data | data | data |
| entry 4 | data | data | data |
| data | data | data |

Table 1. 表の下には、その表が何をさしているのかを簡潔に記載します。表は最初に引用される場所に近い本文中に配置してください。図表の配置については、編集上問題がある場合を除いてそのままの位置に配置されます。

**Figure１.** 図のタイトル

|  |  |
| --- | --- |
| C:\Users\martin\Downloads\testFigure.tif | C:\Users\martin\Downloads\testFigure.tif |
| (**a**) | (**b**) |

**Figure 1.** 図の下にはその説明を記載してください。複数の図がある場合は、以下のように記載します。
(a) 1枚目の図の内容の説明 (b) 2枚目の図の内容の説明。図は、最初に引用される場所に近い本文中に配置してください。図表の配置については、編集上問題がある場合を除いてそのままの位置に配置されます。

考察

　考察では、結果とそれが先行研究や作業仮説の観点からどのように解釈できるかを議論する内容が必要です。調査結果とその意味合いは、可能な限り幅広い文脈で議論されるべきです。また、今後の研究の方向性を強調することもできます。注意点として、結果と考察を混ぜて表記すべきではありません。読者のバイアスを取り除くため、結果は結果に一旦記載された上で、考察の項でその結果の意味合いが議論されるという構成にすべきです。

結語

　このセクションは必須ではありませんが、原稿に追加することができます。ただし、文中の内容から大きく論理の飛躍があるような表現は望ましくはありません。

特許等

　このセクションは必須ではありませんが、この研究に起因する特許がある場合には記載してかまいません。

謝辞

　この研究のために提供されたサポートに謝意を表します。これには、管理面や技術面でのサポート、または現物の寄付（実験に使用した材料など）が含まれます。

引用文献

　文中で番号で指定された引用文献について、このセクションに記載してください。本文中の引用番号は、角括弧 [ ] の中に入れ、句読点の前に置きます（例：[1]、[1-3]、[1,3]）。

１）　文献１

２）　文献２

３）　文献３

のように記載します。

※文献の記載方法は下記に準じてください。

本文中の引用箇所については、（１）、（２）のように明記してください。

また、論文の末尾に参考文献の項目を設け、下記の規則に従って記載してください。

１）雑誌を引用する場合

著者名、表題、雑誌名、巻（号）：開始ページ-終了頁 発行年の順に記載してください。

その際、著者数が３名を超える場合は３名までを記載し、残りは省略してください。

例：Jimbo D, Kimura Y, Taniguchi M, et al. Effect of aromatherapy on patients with Alzheimer’s disease. Psychogeriatrics 9(4):173-179, 2009.

例２：神保太樹、福沢 嘉孝、草野 詠子、他　ラベンダーの再発見　Aromatopia 27(3), 46-49, 2018.

２）書籍を引用する場合

著者名、出版社名、書籍名、引用箇所の開始ページ-終了頁、出版年の順で記載してください。

ただし、教科書など編著者と執筆者が異なる場合は著者名の後に引用箇所を執筆する者を記載してください。

例：小林 祥泰　新興医学出版社、脳疾患によるアパシー(意欲障害)の臨床 161-163, 2008.

例２（引用箇所の執筆者が編著者と異なる場合）：深津 亮、斎藤 正彦（神保太樹、浦上克也）　ワールドプランニング社、くすりに頼らない認知症治療〈2〉―非薬物療法のすべて、85-100, 2009.

３）WEBサイト等を引用する場合

著者名、WEBページの題名、WEBサイト等の名称、URLの順番で記載してください。

ただし、ガイドライン等、他の形で引用可能な場合は、できる限りWEBサイトの引用は避けてください。また、特定の企業等の利益相反性のあるWEBページの引用は引用不可とします。